

# 文化功労者の宇多喜代子さん、後輩指導



豊中市

2019年度文化功労者に選ばれた俳人の宇多喜代子さん(84)―池田市在住―が9日、母校である豊中市中桜塚の大阪府立桜塚高(中田裕省校長)で俳句実践講座を行った。俳句の成り立ちから季語を説明した上で、「上手に書かなくてもいい。自分の知っている言葉、思った言葉を使って俳句を作ってほしい」と呼び掛けた。(光長いつみ)

## 知っている言葉、 思った言葉使って

### 桜塚高で俳句講座

宇多さんは同校の6期生で、高校3年の時に俳句を作り始めた。2006年に現代俳句協会の5代目会長に就任(現在は特別顧問)し、08年には旭日小綬章を受章した。自身の句作のほか、俳句史や俳句評論でも多くの著作がある。

俳句実践講座は、1年生の授業「総合的な探求の時間」の一環で実施。体育館での講演では、高校時代の思い出とともに、俳句についても熱く語った。

宇多さんは、今では俳句が海外でもそれぞれの国の言葉で作られていることを紹介し、「俳句を知ることには日本人として大きな武器になる」と話した。また、歳時記や本を読む大切さを説き、「自然を定点観測して、タフレットにはない季節を自分の目で見て、触れて身につけてほしい。リアルなものを知っておくと、すてきな大人になりますよ」とアドバイスを送っていた。

講演後は、宇多さんが教室を回り、俳句作りに挑戦する生徒を指導。生徒は土人土句を宇多さんに提出し、添削された俳句が後日返却されるという。

「自分の知っている言葉、思った言葉を使って俳句を作ってほしい」と話す宇多さん